

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2017年5月8日 発行

松蔭中学校・高等学校
校長 浅井直光

皆が共に学び、皆が共に励まされるように —今年度の年間聖句— (コリントの信徒への手紙 14:31)

制服に思いを寄せて トロット先生から児島地区の縫製工の方々まで

昨年9月のこととなりますが、海外日本人学校からの帰国生を対象とした入試説明会に参加するために香港に行きました。帰国日の早朝、空港に向かうバス車中から真っ白なワンピースに黒ベルトという制服姿で登校する女子高生を見かけました。さすがに胸のSMSマークは見あたりませんでした。松蔭の夏服かと見紛うばかりで、英国統治時代から英国国教会の聖堂が多い香港で、そっくりの制服を見かけたことに不思議な感覚を持ちました。大正時代に松蔭で英語教師をつとめていた英国人宣教師ドロセア・E・トロットは、ワンピースやセーラー服など洋装制服の導入を検討していたミッションスクールに対して「英国では高貴な人は白を着る」と提案していました。彼女は松蔭の制服制定にも関わり、後に彼女が関わった東京の女学校の制服も白を基調に制定されました。学校のエセルホールに柱に戦前の長袖の真っ白な夏服姿の生徒の写真が貼り付けられていますが、制服だけでなく白いストッキングに白い靴の当時の松蔭生の夏服姿は、トロットの考えに強く影響を受けたものでしょう。真っ白いワンピースの制服は、全国でもめずらしくなりましたが、制定当時の英国人女性宣教師たちの、高い品性を持つ女性を育てようとする思いが込められています。

松蔭の制服には92年の歴史がありますが、夏服の袖が半袖に変更されたり、冬服の白い襟の形や大きさが変わったりと、時代や社会に合わせて変化しながら現在に至っています。数年前、母が卒業生という生徒が、二十数年前の制服を見せてくれたことがありました。当時は純綿だったので、持ち比べてみるとずっしりとした重みがありました。現在の制服は、着心地を良くし、家庭でも洗濯しやすいようにと、3年前に素材などいくつかの改良を加えました。おおむね好評ですが、改善すべき点もまだまだあるようです。最近もスナップの縫い付けが弱いとのご指摘をいただいていますので、これからも少しずつ改良を加え、もっと着やすく、身体にフィットする制服としたいと考えています。間もなく夏服への衣替えの時期で、今年も夕刊紙上に取り上げられることでしょう。さらに良質な制服を、生徒や保護者の皆様の声に丁寧に耳を傾けながら作っていきたいと思います。

先日ある進学塾が発行する学校情報雑誌が、松蔭の制服を作っている縫製工場取材してくれました。工場は岡山県倉敷市の児島（こじま）にあります。児島地区は、江戸時代以来の綿花栽培がルーツとなって繊維産業が大いに盛んになり、大正・昭和時代には学生服の大産地となりました。またカバンなどでも知られるようになった倉敷帆布（はんぷ）は国内生産の約7割のシェアを占めています。1970年代以降は、豊富な綿花と学生服生産で培った技術によるデニム生地縫製で、日

本のジーンズ発祥の地としても有名です。ダメージ加工やヴィンテージ加工などの付加技術も発展し、古くからの持ち味や強みを時代に合わせて取り入れ、新たな発展を遂げた地域の例と言えるでしょう。

取材日の4月下旬は、ちょうど新入生用の松蔭の夏服の縫製作業がピークを迎えており、縫製工の皆さんの手で丁寧に一つ一つの行程を作業が行われていたそうです。生徒が毎日着る制服を、責任を持って作っている様子がうかがえたとのことでした。何年も着続けて傷みのひどい制服の修理を依頼されることがあるそうですが、生徒が大切にしていることをとても喜んでおられるそうです。もし縫製工の方々が、制服姿の生徒の学校生活を実際に見る機会があるとしたら、その作業への思いが深まることでしょう。逆に松蔭生が、大好きな制服が一着ずつ丁寧に作られているところを見る機会があるとしたら、その後もずっと制服を愛し、大切に着続けようと思うことでしょう。制服を作る人と着る人、それぞれの思いが深まることは、特に制服を大切に考えている松蔭に関わる者にとっては大事なことだと思いました。

さらに、伝統の強みと技術を生かし、時代や社会に合わせて柔軟に対応してきた児島地区の現在の姿は松蔭にとっても象徴的と言えます。長年の歴史、伝統ある制服により築かれた強みを生かすと同時に、グローバル社会に合わせた女子教育を作りあげることにより、新たな教育を展開し、その中で子ども一人ひとりの確実な成長を見守っていく学校づくりをすすめます。生徒も保護者も卒業生も、いつの時も誇りに思う松蔭としていきたいと思います。

本校の制服にはいろいろな人の思いが込められています。制服を制定した人。制服を縫製する人。毎日制服姿の子どもを見送る家族。生徒と共にある教職員。いろいろな人々が思いを寄せて制服姿の生徒を見ています。今後も松蔭生が制服を美しく着こなし、「誇りある姿勢」を身に付ける指導を重ねて参ります。

テーマはピース！ 文化祭は盛況のうちに（閉会礼拝のお話から）

先月4月29日の文化祭には、1633名の皆様にご来校いただきました。閉会礼拝で今年度文化祭のテーマ「ピース」について次のように話しました。

文化祭テーマ「ピース」は、一人ひとりが平和を願うPEACE（平和）と、一人ひとりの生徒が松蔭のPIECE（ピース）として存在していることの両方を表しています。このテーマを聞いた時、とても良いと感じました。平和の意味のピースは、何よりも大切なものであることはいまでもありません。そして782名一人ひとりが松蔭のピースであるということも、とても大切な考え方です。

特に今回は、校内の各所に生徒会の皆さんの手によるジグソーピースのパネルが置かれ、また各部の展示にも関連した工夫がありました。文化委員長の丹埜さんがパンフレットに書いていたように、関わった全ての人がピースとして松蔭の文化祭というパズルを完成させ、みんなが幸せで笑顔いっぱいとなった2日間であったように思います。

私の頭の中ではこの2日間、ピースというテーマから「ピースをリスペクトする」という、リス

（裏面に続く）

ペクトという単語をずっと思い浮かべていました。「リスペクト」は「辞書」に「尊重する」とか「尊敬する」とかあって、例えば「相手をリスペクトする」というと「相手を尊敬する」という意味だと説明されます。

しかし、実際には少し意味合いが違っていて、単に「尊敬する」ということではなく、「価値あるものとして大切に扱う」「価値あるものとして大事に見る」という意味で使われます。たとえ自分とは違う感じ方、考え方をする相手であっても、たとえ意見が異なっている、たとえ相手を嫌いであっても、その意見や感性を、価値あるものとして認めて大切にしますよ、ということです。一人ひとりの松蔭生が互いにピースとしてリスペクトする、というのは、松蔭生が互いの意見の違いや考え方の違いも認め合って、その存在を大切に思い合う、という意味になります。

「平和をリスペクト」するというのは、「平和の価値を大切に考える」「平和がある状態をとても良い状況だと考える」という意味になります。

松蔭生が文化祭の2日間、「ピース」を合い言葉としながら、互いに松蔭の一つ一つのピースとして互いにリスペクトすると同時に、平和をリスペクトしていたとしたら、皆さんは「誇りある松蔭生としての姿勢」を間違いなく身に付けていたと思います。この2日間の文化祭に、私はこのようなことを考えていました。皆さん、本当にお疲れ様でした。

(2017年度文化祭 閉会の放送礼拝「校長講話」より)

ESS 部が英字新聞「SHOIN TIMES」を発行しました

文化祭で ESS 部の展示教室を見学なさった方は、ご覧になったかもしれません。ESS 部員の編集による英字新聞「SHOIN TIMES」が発行されました。昨年10月、部長の福田さんに、英字新聞を作ってみないか、持ちかけたところ、「ぜひやりたい」との返事をもらい、早速、高校生を中心に取材・編集作業に入らせていただきました。期日は今年度の文化祭。舞台や展示準備の合間をぬった編集作業は、文化祭前日の納品という形で何とか間に合わせてくれました。松蔭の歴史や制服だけでなく、開港150年の神戸港や異人館街、スイーツに神戸ビーフと地元神戸を英語で紹介しています。タブロイド判の4ページで、近日、全校生に配布する予定です。

(右は第一面の縮小版です)

SHOIN TIMES
Special Edition APRIL 2017

Uniform helps make school popular

Students like the traditional look of the winter uniform.
The parents of a graduate designed our school uniform in 1925. Many students entered Shin in part because they were attracted by the uniform. The summer version is a pure white dress and is known to be one of the summer icons of Kobe. Many newspapers feature the school uniform change every

The pure white summer uniform is unique and beautiful.
length stands out among other school uniforms. A survey asking whether students preferred the summer or winter uniform produced interesting results. Those who like the summer uniform said: "The pure white dress is rare and beautiful. It is cool and the uniform is comfortable, too." On the other hand, those who prefer the winter uniform said: "I like it because it shows tradition and a smooth design. I feel its mature."

The uniforms are unique to Shoin and a reason for longstanding affection of the school.
By Masaru Fukuda

Living every day under the ideals of Christianity

Shoin is a mission school that has various events based on Christian ideals. Shoin has its own chapel, which is always left open, allowing us to pray at any time. Organ lessons also take place in the chapel. Additionally, a birthday worship service to celebrate someone's birthday is provided every month. Other activities include prayer services held every Monday and Tuesday, social services at the charity bazaar, visits to a nursing home, child care experience at a hospital and volunteer work in disaster areas.

Christmas service, which is only held in mission schools, takes place in December. It begins with the performance of the hand bell club. Then, the anthem of the choir is performed and we receive a sermon from a preacher. A tree located in the flower bed at the entrance of the school is decorated with lights and a wreath is displayed at the entrance of the school.

This is how the campus is decorated for Christmas. Also, there is what's called a Peace Tree every year. Students write about world peace on a paper "lantern" which is then placed on the Peace Tree.

There is also a sales event featuring bread and baked goods from Nijiyayoshio, an assisted living facility for the disabled. The bread is made by workers at the Nijiyayoshio bakery, Minatoguchi. The bread buying is carried out as part of the religious activities. They bring their bread to the school to be sold during lunch break once a semester. Students begin to run as soon as the lunch bell rings. They go to two places inside the school where the bread is sold. Deep-fried rice cakes and chococheese are very popular among the students. The bread sales attract nearly all of the students, creating long lines. The most popular items sell out very fast.

Because of its popularity, recently the Nijiyayoshio bread is sold twice a semester. One day it is available for junior high school students and on another day it is sold to high school students. This is another way we can participate in religious activities at Shoin.
By Hiromi Yamaguchi

NOTICE TO READERS
This time we welcome a copy of ESS and members of Shoin Journal to become our regular contributors. They are encouraged to prepare tables and their articles for non-graduate seniors and people associated with Shoin.

学校も家庭も大災害に備えて

大地震など自然災害に備えることは日本列島に暮らす人間にとって避けることはできません。先月末、政府の地震調査委員会が、全国各地で今後30年以内に大きな揺れに見舞われる確率を示した2017年版の「全国地震動予測地図」を発表しました。それによると地震確率は、首都圏をはじめ、神戸45% 大阪56%と太平洋側で全般的に非常に高い数字となっています。関西では、南海トラフの大地震に加え、県内の山崎断層や大阪上町断層など警戒が必要な活断層も多くあります。

学校としての備えについては、次のようにしています。まず校舎については耐震補強を実施済みで、阪神淡路大震災レベルの揺れに耐えるようにしました。また、帰宅が困難な状況を想定して、乾パンなど食料・飲料水や非常用ブランケットなどを備蓄し、校内の自販機は全て災害発生時に利用できる契約で設置しています。また神戸松蔭女子学院大学の保管物資も相互供用できるようにしています。

生徒在宅時の阪神淡路大震災レベルの大災害発生に備え、居住地ごとに4ブロックに分けて教職員を配置する体制をとり、AM神戸（ラジオ関西558MHz。中1及び高1生徒全員に案内シールを配布します。）からは学校情報が放送されるようにしています。また、避難訓練は学期に1回ずつで年間少なくとも3回実施する他、神戸市シェイクアウト訓練にも参加しています。ご家庭でも家具の固定など防災・減災の措置や非常食用食料の備蓄のほか、最寄りの緊急避難場所についても、お子様とご確認いただき、万一の時に備えてのお話し合いをお願いします。

「土曜の保護者おしゃべり会」のご案内

保護者の方どうして学年を超えて、子育てについて、家族についてざっくばらんに、オープンハートに話そうという会です。大人にとっても、心を開いて思いを共有したり、相談しあったり、はたまた愚痴をこぼしあう機会はとても大切だと考えています。毎回1つのテーマを取りあげます。昨年のおしゃべり会のテーマを紹介しますと、「親のストレスケア」「聴くこと（傾聴）」「怒りやイライラについて」「自分も相手も大切に自己表現」でした。

学校側からは私とSC、教員で教育心理の専門家だけが出席し、毎回7～8名の保護者の方が出席されています。今年度第一回は5月20日（土）を予定しています。後日、ご案内のプリントをお子様を通じて配布する予定です。

「話す」は、一人で抱えこんでいることを、いったん自分から「離す」こと。わだかまりやこだわりから自分を「放す」こと。カウンセラーの言葉です。冒頭の聖書の言葉は、今年度の学校の年間聖句です。教職員一同、保護者の皆様と共に学び、共に励ましあいながら、生徒一人ひとりの確実な成長を目指したいと考えています。